（第２号様式）（用紙日本工業規格Ａ３横長型）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年３月 20 日

県立秦野総合高等学校長
（定時制）

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月３日実施）	総合評価（３月 10 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒が主体的に学習に取り組み、分かることが実感できるような、組織的な授業改善を推進する。	①ICT を利活用した組織的な授業改善を進め、教育力を向上させる。学び直しを通じて生徒の基礎学力を定着させ、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。	①ICT に関する研修会を実施し、生徒が主体的に学びたい科目を選択し、興味・関心や進路希望等に応じた効果的な学習を可能にする。	①生徒の授業への参加率を向上させ、生徒による授業評価の項目「できるようになった実感」を向上させたか。	①ICT を利活用した組織的な授業改善を進めた。生徒による授業評価は、全体的に平均 3.0 を超えており、項目「できるようになった実感」を向上させた。また、授業の進め方についてはいずれの項目についても高い基準で達成できた。	①授業の進め方は高い基準で達成できているが、自分の学習の状況については、授業の進め方と比較してやや低い結果となっている。学習法の指導も行う必要がある。後期の授業評価が前期を上回った教科が半数程度であった。授業改善の方向性が課題と思われる。	①授業評価の結果については評価できる。ICT を利活用した授業改善については、成功した事例を共有し、さらに推進してほしい。また、情報リテラシーに関する教育も十分にしてほしい。	①授業評価の結果については評価していただけた。ICT を利活用した組織的な授業改善は効果が出始めている。 生徒による授業評価では授業の進め方については高い基準で達成できているが、自分の学習の状況については、授業の進め方と比較してやや低い結果となっているので、今後、学習法の指導方法や授業改善の方向性検討が必要である。	①ICT を利活用した組織的な授業改善については、成功した事例を共有し、さらに推進していく。併せて、ICT を利活用した授業の特性を考慮したより効果的な学習方法（授業への取り組み方）を研究し、指導していく。 さらに、情報リテラシーに関する教育も十分にしていく。
		②外部の教育資源を活用した幅広い教育活動を展開する。	②地域の教育機関の人材資源を活用し、多彩な教育活動を展開する。	②地域に在住する経験豊かな人材や地域の様々な校種と連携した教育活動を実施する。	②地域の教育資源と連携した科目を設定し、適切な方法で生徒たちに広報し生徒が意欲的に取り組んだか。	②専門学校等と連携してガイダンスを実施した。生徒たちは積極的に参加し、生徒たちの進路意識の向上を図ることができた。	②ガイダンスは各回選択できるようにしているが、全体の生徒数の減少に伴い各講座の人数が少数となっている。今後の講座の設定の方法を検討する。	②生徒数の減少する中実施できたことは評価できる。専門学校等との連携については ICT を利活用した方法も検討し、生徒の学びの充実に努めてほしい。	②生徒数の減少する中、ガイダンスを実施できたことは評価していただけた。今年度卒業生は専門学校へ進学した。専門学校と連携したガイダンスは生徒たちの視野を広げるのに役立っていると考えられる。一方、生徒数の減少に伴って希望に応じた分野の進路ガイダンスの実施が困難になっていることが課題である。	②専門学校等との連携については ICT を利活用した方法も検討するとともに、外部人材活用を視野に入れ、生徒の学びの充実に努めていく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①一人ひとりの生徒の状況掌握と情報共有によるきめ細かな指導体制を推進する。	①生徒を取り巻く環境や課題を的確に把握し、外部機関との連携を図りながら解決にあたる。	①授業や面談等で生徒の教育的ニーズを的確に把握し、ＳＣやＳＳＷ等と連携しながら、きめ細やかな支援を行う。	①支援の必要な生徒に対しては「個別の生徒支援シート」を作成し活用するとともにケースに応じてＳＣやＳＳＷ等と連携することができたか。	①授業や面談等を通して保護者、生徒の教育的ニーズを把握し、職員間で情報共有するとともにＳＣやＳＳＷ等と連携して支援にあたることができた。	①対応の仕方が複雑で難しいケースについては、「個別の生徒支援シート」を活用し、よりきめ細かい支援を組織的に展開できるようにする。	①ＳＣやＳＳＷ、外部機関との連携を密にし、生徒を支援している取組については評価できる。コロナの影響等で心身に不安を抱える生徒のためのケアを引き続きお願いしたい。	①授業や面談等を通して保護者、生徒の教育的ニーズを把握し、「個別の生徒支援シート」を作成するなど学校支援体制を構築するとともに、ケースに応じてＳＣやＳＳＷ等と連携することができた。	①「個別の生徒支援シート」を作成するだけでなく、シートを活用して個に応じた支援を充実させていくためにＳＣ、ＳＳＷ、外部の専門家などを交えたケース会議を定期的に行っていく。併せて、コロナの影響等で心身に不安を抱える生徒のためのケアを継続して行っていく。
		②自己肯定感の醸成による問題行動の未然防止に努める。	②研修やケース会議を行い、支援のあり方について職員の共通理解を深める。また、生徒一人ひとりの自己肯定感の醸成に向け、個に応じた対応をしていく。	②職員研修を充実させ、職員一人ひとりが生徒理解、支援につながる知識を深め、個々の生徒の情報共有し、特性を把握することで支援の充実を図る。	②生徒の教育的ニーズに対応したケース会議や研修を定期的に開催し、支援方針を共有することで個に応じた支援をすることができたか。	②教育相談コーディネーター会議を月一度以上実施し、ＳＣとの面談、全ての新入生とＳＳＷとの面談により、生徒の特性や課題を把握し、支援に生かすことができた。また「こころサポート事業」における研修等の実施により職員の資質向上を図ることができた。	②生徒の特性や抱える課題について共有だけにとどまらず、生徒の支援に生かせるよう職員のスキルアップに努める。また、本校の支援に対する課題を明確にしていく。 また、保護者が精神的な課題を抱えているケースへの対応も考えていく。	②コロナウイルス感染症も収束の様子をみせているため、今後は学校行事も増えるであろう。様々な場面で子どもたちの様子を見て、生徒指導・支援を充実させてほしい。	②教育相談Ｃｏ会議を月一度以上実施し、個に応じた支援を考え、共有することができた。また、持続可能な本校の支援体制の構築について検討した。コロナの影響等で心身に不安を抱える生徒の心理的ケアを含め、職員が入れ替わっても継続的な支援を行っていくことが課題である。 生徒本人だけでなく、精神的な課題を抱えている保護者への対応が今後の課題である。	②教育相談Ｃｏ会議や研修会及びＳＣによる生徒一人ひとりの困りに対する見立てや支援策を継続して共有していく。また、今後も様々な場面で子どもたちの様子を観察し、支援の必要な生徒の早期発見に努める。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月３日実施）	総合評価（３月 10 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	①一人ひとりが必要とする情報を提供し、進路意識を向上させ、目標を達成するための基本的な学力を向上させる。	①進路に向けた目標を自ら設定し、それに向けて努力する姿勢を身に付けさせる。	①ティームティーチングや学習支援員を活用した効果的な教科指導を行うことで、基礎学力を身に付けさせると共にガイダンスを実施することで進路に対する具体的なイメージをもたせる。１年次選択科目(国語基礎、数学基礎、英語の世界)を効果的に活用する。	①ティームティーチングや学習支援員を活用することで基礎学力を身に付けさせることができたか。また、自らの進路に対する具体的なイメージを持たせることができたか。	①ティームティーチングや学習支援員を活用し、基礎学力を身に付けさせることができた。また、先のガイダンスやＬＨＲ等を通して、自らの進路に対する具体的なイメージを持たせることができた。	①１年次選択科目は効果的に活用できているが、受講者がごく少数であった。基礎学力を身に付けさせるのに効果的なので、もう少し受講者数を増やしたい。	①総合学科の特徴を生かしたカリキュラム編成により基礎学力の定着に向けた工夫がなされている。今後は生徒の現状や課題を適切に見極め、具体的に検討を進めてほしい。	①総合学科の特徴を生かしたカリキュラム編成により基礎学力の定着に向けた工夫を評価していただけた。 また、ティームティーチングを実施し、学習支援員等を活用した結果、きめ細かい教科指導をすることができた。	①今後は生徒の現状や課題を適切に見極め、具体的に検討を進めていく。 また、対面だけでなくオンラインによる外部人材活用での講演や支援を受けられる機会を増やし、生徒の進路希望先のオンライン説明会への参加やオンライン出願等、新たな受験形態に対応する具体的な指導・支援等を行っていく。
		②社会人としての自覚を身に付けさせ、望ましい勤労観を醸成する。	②社会人として必要なコミュニケーション能力やマナーを身につけ、働くことの意義を理解できるようにする。	②ハローワークと連携や「産業社会と人間」「職業一般」の授業を通して労働法やマナーを指導する。	②生徒たちに労働法についての知識やマナーを身に付けさせることができたか。	②「産業社会と人間」「職業一般」「課題研究」の授業を通して労働法やマナーを指導した。	②外部の人材を（オンライン等も含めて）活用する方法等を検討する。	②生徒の学びの充実に向け、様々な授業の形態を研究してほしい。	②授業を通じてマナー等を指導した結果、生徒たちが自信を持って面接試験等に臨むことができた。	②生徒の学びの充実に向け、様々な授業の形態を研究していく。また、１年次から、生徒が個々の適性に合わせてマナー等の基礎・基本の学習教材に取り組めるよう工夫をする。さらに、生徒の進路実現に向けて全職員が支援する体制を構築する。
４	地域等との協働	①保護者や近隣地域との協力体制を推進し、教育活動を積極的に外部に発信する。	①地域清掃等の地域貢献活動によって、近隣地域に信頼される取組を進める。	①生徒の地域貢献活動等へ積極的参加を促し、地域社会の一員としての自覚を醸成する。	①地域清掃等の活動に生徒が積極的に参加し、ボランティア精神や社会性が高まったか。	地域貢献活動として、有志による通学路清掃と全員参加による学校周辺清掃活動を実施し、生徒の積極的な活動が見られた。	今年度も近隣地域との交流はできなかったが地域と連携した活動を引き続き検討する。	①コロナウイルス感染症により、同じ空間にいてつながりを持つ大切さを実感した。今後はそのような場面を増やし、地域との連携をさらに充実させてほしい。	①今年度も近隣地域との交流はできなかったが、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、地域貢献活動等として、有志による通学路清掃と全員参加による学校周辺清掃活動を実施し、生徒の積極的な活動が見られた。	①来年度は、コロナ禍でもできる地域貢献活動を検討し、保護者や近隣地域との連携・協力体制を構築し、さらに推進していく。 また、同じ空間にいてつながりを持つような場面を増やし、地域との連携をさらに充実させていく。
５	学校管理 学校運営	①職員の学びあいによる人材育成を推進する。	①職員構成に応じた適切な業務分担を行うとともに、引継ぎを工夫する。	①職員構成に応じた適材適所の業務分担を行い、事故不祥事を防止する。	①業務分担を工夫することによって事故不祥事ゼロを継続することができたか。	①職員が１名欠ける状況であったが、不祥事ゼロを継続することができた。	①一部職員の経験に頼る部分も多く、業務分担の工夫は十分ではなかった。業務分担をさらに工夫することによって、次年度も不祥事ゼロを維持する。	①職員が欠ける状況であっても柔軟な業務分担を行い事故防止に努めていることを評価するとともに引き続き不祥事ゼロを維持していただきたい。	①厳しい職員構成の中、成績処理・入試選抜における事故不祥事ゼロを継続することができた。適材適所の業務分担を行うことによって来年度以降も事故不祥事ゼロを継続する。	①適材適所の業務分担と共に業務の均分化を進め、引き続き事故不祥事ゼロを維持していく。
		②外部連携による総合学科高校としての充実を図る。	②外部の教育機関との連携を通して、総合学科の特色を生かした教育活動の充実を図る。	②外部の教育機関と連携した魅力的な科目を設置し、適切な広報を行い、充実した教育活動を展開する。	②外部の教育機関と連携した魅力的な科目を開講し、充実した教育活動を展開できたか。	②アイム湘南理容美容専門学校のアイム美容講座に２名、かなテクカレッジ西部のキャリア支援講座に２名の生徒が参加した。	②生徒数の減少によって例年通りの運営が困難になっている。今後の方向性について検討の必要がある。	②生徒数減少の状況にもかかわらず、継続して職業キャリア支援講座等に生徒を参加させていることを高く評価する。	②生徒数減少の状況にもかかわらず、継続して職業キャリア支援講座等に生徒を参加させていることを高く評価していただけた。アイム湘南理容美容専門学校及びかなテクカレッジ西部との連携講座に参加した生徒は有意義な学びをすることができた。参加者の確保が課題である。	②本校の教育内容に関する広報を工夫して入学者を確保する。また、面談等を利用して、生徒・保護者に本校の連携講座の意義と魅力を周知し、一定程度の参加者の確保に努める。